

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 4 6	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Associations between Health-Related Behaviors: A 7-Year Follow-up of Adults 健康関連行動間にみる相関：成人の七年間追跡調査	
執筆者	
M. Laaksonen, S. Helakorpi, A. Uutela	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Preventive Medicine 2002; 34: 162-170	
キーワード	
健康関連行動、ライフスタイル、追跡調査、喫煙、ボディーマスインデックス	
要 旨	
<p>背景)</p> <p>数多くの健康関連行動が罹患率や死亡率に大きく影響を及ぼしている。この研究では喫煙、飲酒量、身体活動、食行動、BMI が互いにどう関連するかということについて、フィンランド人青年の7年間の追跡調査を用いて検討した。</p> <p>方法・対象)</p> <p>1978年以來毎年フィンランド人青年の健康行動について調査が行われている。その中で1989-1990年に15-64歳の中から無作為に各々5,000名を対象に選んだ。両年で合わせて計7,689名(男性3,664名、女性4,025名)から返答があったが、その内で1997年に追跡できた計5,494名(男性69%、女性78%)を今回の研究対象とした。</p> <p>自己申告の形式を用いて、喫煙、飲酒、身体活動、食行動およびBMIについて調査した。各々の変数が7年後のその他の変数を予測し得るかを検討するとともに、各々の変化がその他の変数の変化に連合しているかを検討した。</p> <p>結果)</p> <p>男性では基準時の喫煙がBMIを除くその他の全変数を予測し得た。一方で喫煙以外の変数は喫煙を予測し得た。男性では身体活動と不健康な食行動は互いに予測因子となり得た。基準時に不健康な食行動にあった者は追跡後の高度飲酒者にはなりにくかった。基準時のBMIは全く他の予測因子とはならなかった。食行動と飲酒の変化は女性よりも男性でのBMIの変化にそれぞれ異なる形で関連した。</p> <p>結論)</p> <p>喫煙が健康関連行動同士の関連に中心的役割を果たしており、その他の行動の大半で予測因子となることが分かった。</p>	